

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4292200021
法人名	社会福祉法人 五島会
事業所名	グループホーム 福美荘
所在地 (電話番号)	長崎県五島市大荒町1208-1 1211 (電 話) 0959-74-6008

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 10月 2日	評価確定日	平成 21年 1月 20日

【情報提供票より】(平成 20年 9月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 13 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000円		その他の経費(月額)	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり850円			

(4)利用者の概要(平成 20年 9月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低 72 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	五島中央病院、聖マリア病院、よこやま歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

19年11月1日、同じ敷地内に建てられていた3つのホームのうち、2つのホームが1つの事業所(2ユニット)として新たに統合された。もともと地域の方々との交流も築いてきており、ご利用者の方々も引き続きの入居のため大きな混乱は無かった。定年退職に伴い新たな管理者が就任しているが、それぞれ経験もあり、介護支援専門員・職員との良いチームワークを作っている。母体本部の支援体制は強力で、職員の育成体制の充実が図られているとともに、相談員・管理栄養士・OTなど各専門職との連携も保たれている。ご利用者も地域の方が多く、お一人おひとりの生活歴も大切にして、ご本人が一番安心できる環境作りにも配慮している。ご利用者の高齢化による心身レベルの変化に伴い、活動状況にも変化が生じてきているが、職員全員でご利用者がより良い暮らしが出来るように、最後まで慣れ親しんだ地域で暮らせるようにと取り組んでいる。ご利用者から「私がここにいるまでは絶対にいてね」と言われ、職員は涙が出る時もある。ご家族との関係も良く、笑い声がいつも聞こえてくるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	隣同士の2つのホームが平成19年11月1日に一つの事業所になり、今回初めての外部評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 一つの事業所になって初めての自己評価であった。各職員に自己評価を行ってもらい、管理者が一つにまとめていった。入力には母体本部のほうで協力していただいた。「記録が難しい」という職員もおられたが、管理者が支援を続けながら最後まで取り組んだ。自己評価に取り組む中で、あらためて「理念」のあり方に気づく場面もあり、今後の取り組みが検討できた項目もあった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 同法人の同地区4事業所合同で運営推進会議を開催している。ご利用者・ご家族・町内会長・五島市職員などの方々が毎回参加していただいているが、地域の情報などを教えていただいている。参加者の方から「地域との交流を、もっと多くしてはどうか」とのご意見をいただき、同法人4ホーム合同での地域交流会を行なった。事業実績などを報告し、その後、意見交換を行なっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 普段の会話などからご家族が知りたいことを把握し、個別記録も見いただき、こまめに報告を行っている。遠方のご家族には電話でお伝えしたり、お手紙を郵送している。健康状態が気になるご家族には病院の先生にも協力していただき、直接説明をしていただくなどしている。1ヶ月に1回、ホーム便りと担当者からの手紙を郵送している。ご家族からも「安心できる」など、有難いお言葉をいただいている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 一つの事業所に統合される前から地域行事に参加しており、近隣の方々とのお付き合いを続けてきた。新しい事業所になってからも変わらず、ご利用者の身体的レベルに合わせて地域行事に参加している。自治会に加入し空き缶拾いや清掃等に参加している。チャンココ見学、運動会にも行っているが、ホームのために席を準備していただいた。自治会の一員として回覧板を回したり、同系列のホーム4棟合同で「ふれあい会」を開催し、手作りの案内状をご利用者と一緒にご近所に配ってまわった。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針には、「住みなれた地域でのあたり前の暮らし、市民の皆様とのオープンな付き合い(地域行事への参加、当事業所の公開等)により・・・地域住民としての役割を持った生活が維持できるよ・・・」と言う明確な表現を盛り込んでいる。両ユニットともに、それぞれ介護目標を職員全員で作成しているが、その文章には「地域の中でその人らしく生きがいを持って生活していただけるよう・・・」という思いをこめている。	○	今回の自己評価を行なう作業を通して、職員の方から、「介護目標の方にも地域密着を意識して表現していきたい」と言う言葉が聞かれた。職員の視点・お気持ちを大切に、今後、職員全員で話し合いが行われていくことを期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念は職員全員で作成されており、両ユニットともに日々の朝礼やケアプランのカンファレンス時、月末評価時など会議の中などで常に再確認を行っている。管理者は職員の個性・長所をその場その場で活かしながら、日々の介護に取り組んでおり、両ユニットともチームワークができてきている。	○	時々、ゆとりがない時など、方言や語調が強くなる時があり、職員全員で振り返りを行ないながら、取り組んでいきたいと考えている。その方らしい生活ができるよう全員で取り組んでいることも多く、今後も、課題を見つけあい、さらに次のステップに向けて実践できる方法を検討していかれてほしい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一つの事業所に統合される前から地域行事に参加しており、近隣の方々との付き合いを続けてきた。新しい事業所になってからも変わらず、ご利用者の身体的レベルに合わせて地域行事に参加している。自治会に加入し、空き缶拾いや清掃等に参加している。チョコ見学、運動会にも行っているが、ホームのために席を準備していただいている。自治会の一員として回覧板を回したり、同系列のホーム4棟合同で“ふれあい会”を開催し、手作りの案内状をご利用者と一緒にご近所に配って回った。	○	現在、小・中学生の訪問も受け入れているが、子供たちを見つめるご利用者の笑顔がとても良いので、今後は、保育園の先生にも挨拶に行き、保育園児にも遊びに来ていただけるよう取り組みを続けていく予定である。「ご利用者の笑顔が見たいから」と言う全職員の思いが熱く、今後、実現に向けた取り組みができていくことを期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一つの事業所になって初めての自己評価であった。各職員に自己評価を行ってもらい、管理者が一つにまとめていった。入力には法人母体本部のほうで協力していただいた。「記録が難しい」という職員もおられたが、管理者が支援を続けながら最後まで取り組んだ。自己評価に取り組む中で、あらためて“理念”のあり方に気づく場面もあり、今後の取り組みが検討できた項目もあった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同法人の同地区4事業所合同で運営推進会議を開催している。ご利用者・ご家族・町内会長・五島市職員などの方々が毎回参加していただいているが、地域の情報などを教えていただいている。参加者の方から「地域との交流を、もっと多くしてはどうか」とのご意見をいただき、同法人4ホーム合同での地域交流会を行なった。事業実績などを報告し、その後、意見交換を行なっている。	○	今までの地域に対する取り組みを通して、ホームへの理解者・応援者が増えてきている。今後、運営推進会議の利点を活かして、地域の達人の方などもゲストでお招きする方法も検討してみたい。参加者全員が更なる勉強の場になっていくことも期待でき、より多くの方に、ホームの取り組みを理解していただけることにつながると思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議で市の職員の方とお会いする機会が増えたことから、市の方に相談しやすくなった。法人母体本部の方々が「ホーム便り」などを市役所に持参しており、その時も個別に相談できている。	○	今後は、ホームの方でも「ホーム便り」を市へ持参するなど、積極的・継続的な情報提供・意見交換を積み重ねていくなかで、更に関係が深まることも期待できる。サービスの質の向上につながっていくことを期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	普段の会話などからご家族が知りたいことを把握し、個別記録も見ていただき、こまめに報告を行っている。遠方のご家族には電話でお伝えしたり、お手紙を郵送している。健康状態が気になるご家族には病院の先生にも協力していただき、直接説明をしていただくなどしている。1ヶ月に1回、ホーム便り・担当者からの手紙、請求書などをご家族に郵送している。ご家族からも「状態がよくわかる」「安心できる」など、有難いお言葉をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の殆んどが地域の方でご家族の面会の回数も多い。その際にご家族と話す時間を作り、ご希望や意見を伺うように心がけている。ご家族が協力的で、職員とご家族が、家族のように話しやすい関係になってきている。ご家族から、ねぎらいのお言葉をいただくこともあり職員はご家族の方に支えていただいていると感じている。年に2回ご家族アンケートも実施しており、法人全体の主任会議の際に、同法人の事業所にいただいたご意見などを意見交換している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、ご利用者にとって馴染みの関係が大切なことを理解しており、定期異動などは行っていない。管理者の定年退職や病気などの理由で退職された場合は、母体施設・各ホーム間で人事異動を行っている。毎月、職員同士でお茶会を行ない、管理者も職員の相談にのれるよう心がけており、休みの希望にも極力応じている。新しい職員が配置された時は、他の職員の指導や見守りの中でケアができるように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成に力を注いでおり、法人本部で2か月に1回、職員研修を続けているが、研修内容は更に充実させている。本部の方で各職員の経験・資格などを把握しており、個別の育成計画を作成し、個々に応じた研修が受けられる体制を作っている。各ホームの方でも、毎月(適宜)会議と同じ日に勉強会をしている。外部研修に参加した職員は、会議の場や法人全体の集まりの場で伝達研修を行ない、職員間で共有できている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のホームとの交流は多く、定期的に法人本部での研修にも職員が参加している。同法人以外の近くのホームにも声かけし、一緒に行事が行えるような働きかけを続けている。運営者は、2ヶ月に1回開催されるGH協議会の研修に参加させており、相互訪問や日常的な情報交換・相談などを続けている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や本部の相談員が、自宅訪問をして顔馴染みの関係を作っている。ご家族がホームの見学をする際に、ご本人も一緒にいただき、サービス開始後もご家族や顔馴染みの方に頻りに訪問していただいたりするなど、馴染みながらの利用をいただいている。入居後も行きつけのお店へ行ったり、顔馴染みの人と会話をする機会を作ったり、自宅で使用していた物を持ち込んでもらうなど、以前の生活に近い生活が送れるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長年、培ってこれたお力を発揮していただくようにしている。調理方法や、野菜や魚の種類などをご利用者から教えていただいている。職員が行なった何気ない行為に対しても「すまんね」「ありがとう」と笑顔で言っていたが、職員が帰る時は「気を付けてね」「またね、明日も来いよ」と声をかけてくださる。職員がご利用者から支えていただいていると日々感じている。ご利用者から「私がここにいるまでは絶対にいてね」と言われ、職員は涙が出る時もある。ご利用者の喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が絶えず発信している心のサインを見逃さないよう職員は心がけている。意思疎通が難しい方に対しても、“外を見るお姿”から、“家族に会いたい?”と言う心理を汲み取り、ご家族に連絡して面会にきていただくこともある。日頃、お一人お一人のご利用者に向き合って、声かけを続けるうちにジェスチャーでサインをしてくださるようになり、その後、表現ができるようになった方もおられる。生活歴も大切に、ご本人が一番安心できる環境作りにも配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者自身の計画という視点に立ち、一人ひとりが「その人らしく暮らす」計画を立てるために、介護支援専門員は、日々、居室を訪問しゆっくり話をする機会を作っている。また受診時同行しており、医師からの指示もいただいている。介護計画にはご本人の言葉を使用し、全ご利用者「地域で暮らす」という視点が盛り込まれており、職員全員で話し合い作成をしているが、ご本人・ご家族にもご意見をいただいている。法人本部のOTや支援相談員、管理栄養士にも適宜相談できている。	○	現在、特に重点内容を中心に介護計画を作成している。今後、日常のケア(入浴・食事・移動面など)も、介護計画に盛り込み、OTの方の指導のもと、リハビリ計画も盛り込んでいけることで、より短期目標も具体化していくことが期待できる。現状も、ご利用者主体の視点で計画が作成されているため、今後の取り組みを更に期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご利用者の要望・状態に変化が見られなくても、全利用者に対して中旬・月末と月に2回職員間で見直しをしている。モニタリングは記録に残しており、見直しの会議以外でも、ご利用者・ご家族・関係者と話し合いを持っている。その際に新たな気づきや意見が出された時は、それらを計画に反映させるために、臨機応変に計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制のもと、なるべく昼間に体調の変化を医師に相談し、早期発見、早期治療を心がけている。入院中はお見舞いに行き身の回りのお世話やご家族支援もしている。医師との連携を取りながら、早期退院ができるよう対応をしている。ご本人の要望に応じてお墓参りや自宅への外泊は、体力的に無理のない範囲で行っており、地域の方からの相談にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医で受療していただいている。ご家族が通院介助をする時もあるが、現在は主に介護支援専門員が通院介助している。医師への報告を丁寧に行ない、いつでも相談できる医師を確保しており、信頼関係も築いていっている。ご家族への受診結果の報告は、変化がない場合もきちんと行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には、終末期の対応は、ご本人・ご家族や職員・母体施設の職員・医師などと相談をして、その後の最適な生活の場所を話し合っている。重度化にともなう対応も、病状に応じて繰り返し話し合いを持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に、ご利用者のお気持ちに気を配り、自尊心や羞恥心にも配慮した声かけや言動に注意している。ゆとりが無い時に方言や語調が強くなる時があり、お互いに注意あっているが、尊敬の念を持った対応はできている。個人情報の取扱いには、全職員が法人の規定を理解し、個人に関わる管理も徹底できている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の日課については、生活リズムが取れるよう声かけ等行っているが、無理強いせずご利用者の体調や気分に合わせて対応をしている。生活動作に時間がかかる方についても、無理のない範囲で本人のペースを尊重している。また、希望を言えないご利用者に対しては、お話をしたり音楽を聴くなどあらゆる方法で1対1で接する時間を持っている。お一人お一人の生活歴も大切にし、日々の活動の中で会話を多く持つようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にも買出しや下ごしらえ、配膳・下膳や片付けに参加していただき、力を発揮してもらうようにしている。ご利用者が食べたいものを献立に組み込むようにし、切干大根やかんころ餅などの郷土料理も作っている。旬の食材を採り入れたり、屋外で食べたり、疾病等で食形態が異なるご利用者の食事、他利用者の食事と見た目があまり変わらないよう工夫をしている。職員も必要な介助を行いながら一緒に楽しく食事をしている。皿うどんの出前をとることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低、週に3回は入浴していただいているが、希望のあった時は適宜入浴できるようにしている。体調に無理のない範囲で、入っている時間や湯温、順番、シャンプー等もご利用者の好みに個々に対応している。羞恥心にも配慮して、できる方には可能なかぎり自分で洗っていただいている。入浴を楽しんでいただけるように、季節に応じてゆず湯・菖蒲湯なども行ない、年に1回は温泉に行くなど楽しい入浴に向けた支援を取り組まれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者の方が役割や楽しみを持てるように、お一人お一人の生活歴を大切にしている。料理の準備や後片付け、洗濯物たたみなどの役割を担って下さる方も多い。また、生け花をしてくださる方、大好きな歌や踊りで、場を盛り上げて下さる方もおられる。煙草とパチンコを楽しみにしている方、神父様の訪問を楽しみにしている方など、個々の生活を大切にしながら、個別の役割・楽しみを作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の心身状況等に応じて積極的に外出していただいている。ご利用者の希望に応じて、買い物や散歩・自宅への外出も行っている。外出先は、気分転換や五感刺激の機会となるよう、ご利用者の行きつけのお店や、パーマ屋・顔馴染みの人との会話が出来る場所などを選び楽しんでいただいている。教会への訪問は身体的な理由を加味し、神父様に毎月来ていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(6:00～21:00過ぎ)は鍵をかけていない。ご利用者の安全を確認しやすいように、職員が作業する場所や向きに工夫したり、職員同士で声をかけあったり、必要に応じて1対1での対応が可能になるよう職員体制を整えている。また、ご利用者ごとに落ち着かなくなれる時間帯・傾向・原因を把握し、事前の対応策をとっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回ほど、ご利用者、消防署員、防災所の方を含めて消火訓練・総合訓練等を行い、地域の方にも避難場所の確保と、避難誘導の際の協力依頼を行っている。また、火元になりそうな箇所は夜に2・3回点検している。法人本部の方で災害に備えて食料や飲料水を準備している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士が作成した献立も参考にして作るようにしているが、定期的に同法人の管理栄養士にチェックしてもらい、アドバイスをいただいている。食事量・飲水量ともに把握し記録にも残している。食事で十分な栄養が補給できない場合は、おやつや捕食でカバーしている。定期的な体重測定・血液検査の結果に基づいて医師よりアドバイスをいただいている。また、食事量や飲水量が少ない時は、果物やボンボンアイスなどで補うようにすると食べていただいた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良いので、蓆簾や簾で調整をしたり、換気を十分に行い臭いや空気の澁みに注意している。また、季節ごとに花を生けたり壁飾りをしている。廊下には、くつろげるようにソファやテーブルを配置しており、ご利用者がコーヒーを飲んだり将棋をしている。一方のユニットでは、玄関に入ってすぐの場所にソファを置いており、そこから外が眺められるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の馴染みのあるものを、ご家族にもお願いして持ってきていただいている。長年使ったつげの櫛、お人形、ご自分で働いて買った背広、造花や生け花、観葉植物、写真、共同で作った作品などがあり、その人らしい居室になるよう配置も配慮している。		